第 183 回国会参議院　予算委員会　第 9 号　平成 25 年 4 月 22 日（2013 年）

https://kokkai.ndl.go.jp/#/detail?minId=118315261X00920130422&current=1
国立国会図書館

○白眞勲君

　そこでポイントになるのが歴史の認識問題だと思うんですけれども、総理は村山談話については、せんだっての参議院本会議でも、我が国はかつて、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました、その認識においては安倍内閣は歴代の内閣と同じ立場であります、その上において、しかるべき時期に二十一世紀にふさわしい未来志向の談話を発表したいと考えており、そのタイミングと中身については、今後十分に考えていきたいとしております。この認識でよろしゅうございますね。

○内閣総理大臣（安倍晋三君）

　先般の本会議で答弁したとおりでございます。

○白眞勲君

　村山談話継承ということですね。

○内閣総理大臣（安倍晋三君）

　この村山談話について言えば、言わば村山談話において述べられた点について私が共感できる点について今御紹介をいただいた、それを私は答弁させていただいたわけでございますが、言わば村山談話は戦後五十年を契機として、戦後五十年に出された談話でございます。そして、今の安倍政権の考え方としては、これを継承する継承しないということではなくて、六十年には小泉政権の談話が出されているわけでございまして、あれからもう十数年時を経ておりますので、例えば七十年を期して新たな談話を出していくということも考えたいと、このように考えているということでございます。

○**白眞勲君**　私が聞きたいのは、村山談話は継承するのかどうか、その一点なんですけれども、お聞かせください。

○**内閣総理大臣（安倍晋三君）**

　安倍内閣として、言わば村山談話をそのまま継承しているというわけではありません。言わば、これは五十年に村山談話が出され、そして六十年に小泉談話が出されたわけでありまして、これから七十年を言わば迎えた段階において安倍政権としての談話をそのときに、そのときの言わば未来志向のアジアに向けた談話を出したいと今既に考えているところでございます。